

入選

## 友達の心に寄り添う言葉がけ

山口県 岐陽中学校 二年  
藤井 理緒

2020年6月、コロナ禍の真ただ中。私は家族で東京に引っ越した。初めての東京での生活、しかもコロナ禍での生活。新しい学校になじめるのかな、コロナはこれからどうなっていくのかな、と期待や不安が入り混じる中、私の東京生活がスタートした。

登校初日、小学5年生だった私はクラスメイトの前で自己紹介をした。担任の先生が場を和ませてくれ、私は緊張せずに自己紹介をすることができた。クラスの雰囲気も良く、ホッとしたのもつかの間、みんなマスク姿で顔と名前を覚えるのが大変そうだ、と不安になったのを覚えている。

登校2日目、まだ不安な気持ちで登校していたそのとき、一人の女の子に声をかけられた。

「ねえ、りおちゃんだよね？誕生日ってもしかして、11月22日？」

私は驚いた。話しかけてくれたのは、後に仲良くなるあかりちゃんだった。あかりちゃんがしっかり私の名前を覚え、呼んでくれたことがとても嬉しかった。どういうわけか、誕生日も大当たりで話も弾み、私たちはすぐに仲良くなった。やっぱり名前を覚えてもらうって嬉しいな、と感じ、私もみんなの顔と名前を早く覚えようと思えた。

名前を覚えて呼ぶことは、相手のことを思っている気がして温かい。私は、これも一つの親切だと思った。マスク姿でも、何とかみんなの名前を覚えられた私は、やっぱり学校が楽しくなってきた。

クラスメイトとどんどん仲良くなる中で、私が驚いたことがある。それは登校2日目、私に話しかけてくれたあかりちゃんが、実はとてもシャイな女の子だったことだ。友達に自分から話しかけることが、あまり得意ではなかったのだ。

そんなあかりちゃんが勇気を出して、私に話しかけてくれた。そして、私の新しい学校生活の不安を取り除いてくれた。私はあかりちゃんの勇気に助けってもらったと、温かい気持ちになった。まだ出会って二日の私に、勇気を出して話しかけてくれたあかりちゃんには、感謝の気持ちがいっぱいだ。

人と人が仲良くなるには、やっぱり言葉や表情が大切だと思う。マスク姿でも、目でその人が笑っているかわかるし、何気ない会話を通して相手のことがわかるようになる。さいわい、東京のクラスメイトは、みんな優しかった。みんながあかりちゃんのように私に話しかけてくれたから、私の東京での生活は楽しいものとなった。何気ない話題で友達と話すことは、コロナ禍で行動制限のある私たちにとって、とても楽しい時間だった。

コロナの収まってきた2022年5月、2年間の東京生活を終えて、私は山口県に戻ってきた。コロナ禍ではあったが、人の優しさにふれ、楽しい2年間だった。仲良くなった友達との別れはさびしかったが、どんな場所でもあかりちゃんのように、人の心を温かくできる存在でありたいと思う。